# 葛飾北斎の富嶽三十六景の謎を解く

## 蔵出し画像集

(7)

旧東海道杉並木から

そのまま箱根関所手前の高台から見る。
江戸時代は階段上に神社があったようである。

相州箱根湖水図

田子の浦にかすみのかく見ゆる哉もしほの煙立やそふらん(大中臣能宣)

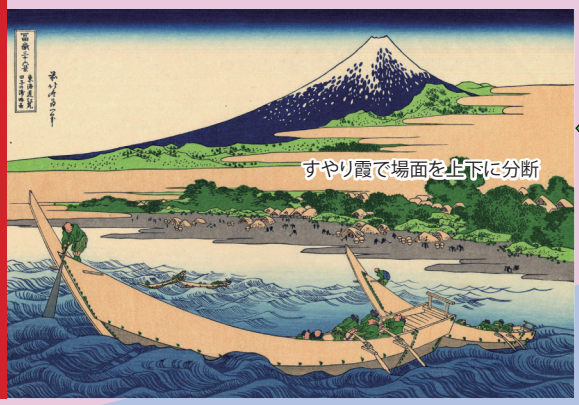
文邊の不二(富岳百景二編)

沼津市久連から

田子の浦ゆうち出でてみれば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける(山部赤人)

さった峠沖合の風景を左右反転すると
左画像の沼津市久連の風景に近い

東海道江尻田子の浦略図




古典和歌の引用(略図=やつし絵)

古くは京から船旅にて三保を超え富士山が見え始めた湾を「田子の海」と呼んでいた。北斎はこの田子の海(田子の浦)にある由比の塩田風景を反転させると伊豆(沼津)久連～沼津間の風景と一致することに気付いた。正にそれは久連～江尻(清水)間にある航路として田子の浦を横断する。
そうするとタイトルの意味が透けて見えてくる気がする。もちろん、これは珍説ではあるが…

甲州犬目峠

旧甲州街道犬目宿付近から

犬目付近はかなり高所でなければ富士山は見えない。
よってこの画は別場所の富士山との合成であろう。

下諏訪諏訪大社付近から

昔の諏訪湖は今より広く、山際まで水があった。
眼下に見える下諏訪の町は湖底にあたる。

信州諏訪湖

富士五湖ドットTV
fujigoko.TV
https://www.fujigoko.tv/
他の北斎視点詳細はこちらから。
記:久保覚